

日時：2019年6月15日（土）10:00～13:30

場所：東洋大学 白山キャンパス 8号館 7階 特別会議室

出席：渡邊芳之理事長、松田英子副理事長、小塩真司、尾見康博、北村英哉、加藤 司、森津太子、向田久美子、中村 真

※第28回大会準備委員会を代表して、桂瑠以委員が準備状況報告のため出席（「報告事項」のみの出席）

日本パーソナリティ心理学会第132回常任理事会

報告事項

I 理事長挨拶

II 各種委員会報告

1 機関誌編集委員会（加藤委員長）

(1) 編集状況について

第28巻1号について、原著6篇、ショートレポート4篇が掲載され、7月に発行を予定している旨の報告があった。第28巻第2号については原著3篇、ショートレポート2篇が採択されたとの報告があった。

種別	題目	筆頭者
ショート	教師の教科指導学習動機と学習方略、授業力の自己認知との関連	三和秀平
原著	対人過敏傾向・自己優先志向が対人ストレスイベント、抑うつに及ぼす影響についての縦断的検討	村中昌紀
ショート	Dark Triadの高い者はゴミのポイ捨てをしやすいのか	下司忠大
原著	辞書研究に基づく対人特性語の構造の検討	橋本泰央
原著	男子大学生の男性役割態度と関連する親の要因	渡邊寛
原著	子ども用強み注目尺度の作成と信頼性・妥当性の検討	阿部望
ショート	嗜好品摂取の心理学的効果と幸福感及び満足度との関係：対人関係上の出来事に遭遇した際の嗜好品摂取に焦点をあてて	横光健吾
ショート	日本人のレジリエンスにおける年齢変化の再検討—10代から90代を対象とした大規模横断調査	上野雄己
原著	児童版のコンピテンス領域別の他律的セルフ・エスティーム尺度の開発	賀屋育子

(2) 審査状況について

以下の表の通り、審査状況について報告があった。

月	採択	審査中	修正中	不採択	取下	投稿数
1	3	15	12	4	0	7
2	2	17	13	3	1	8
3	2	19	9	5	1	7
4	6	10	11	5	1	10
5	2	11	9	4	1	2

加藤委員長より、これまで原著とショートレポートの投稿数がほぼ同程度であったが、過去数ヶ月の間、原著が減り、ショートレポートが増えていること、ショートレポートに関しては掲載の水準に達していないものも多く、結果として、投稿数が増えても掲載数は増えない（採択率は減る）見込みとの報告があった。

松田常任理事より、新しい形式のショートレポート（追試研究や事前登録研究など）の投稿状況について質問があったが、まだ1本もないとのことであった。渡邊理事長からは、研究者側の負担もあるため、成果が出るまでに時間がかかるであろうとの見通しが示された。

加藤委員長からは、同じデータを複数の論文で使用しながら（いわゆるサラム論文）、そのことへの言及がなく、最終的に不採択になってしまうケースがあると問題提起された。北村常任理事より、編集委員会で事前に倫理面のチェックができなかったとしても、最終的には読者（市場）が判断するとの見解が示された。

尾見財務担当常任理事からは、校閲業者（カクタス）への請求を月ごとにまとめることで経費削減につながるとの提案が出され、継続検討することになった。

2 経常的研究交流委員会（小塩委員長）

(1) 第3回パーソナリティ心理学コロキウム

「心理学は性差にいかに向き合うか」というテーマで、2019年3月30日（土）に立正大学品川キャンパスでコロキウムを開催し、31名が参加した。

(2) 大会企画

以下の通り、大会企画を開催する旨の報告がなされた。

テーマ：「社会問題とパーソナリティ」（仮題）

話題提供：栗田季佳（三重大大学）、土井理美（東京医科歯科大学）、三船恒裕（高知工科大学）

指定討論：北村英哉（東洋大学）

概要：障害者差別問題、外国人に対する問題（ヘイトスピーチを含む）、女性への性的加害、貧困（子どもの貧困を含む）などの社会問題が近年様々なメディアで取り上げられることが多い。これらの社会問題に対して、メカニズムの解明など、基礎的・応用的研究を問わず、パーソナリティ・個人差研究の視点からどのような知見が得られるのか、どのようにすればこのような社会的問題は低減できるのかの展望を議論する。

メモ：本企画は、MPPとしての役割も含め、シンポジウム後にミドルサイコロジストの方々にお声がけし、懇談をする予定（委員の中で担当者を割当）。

(3) 委員構成

前回の理事会で承認された委員構成について、報告がなされた。

3 広報委員会（松田委員長）

(1) 活動報告

ウェブサイトの更新、メールニュースの配信などの活動内容が報告された。

(2) WEBサイトについて

2018年8月の大会に合わせてサイトをリニューアルし、セキュリティが向上したが、更

新がしばらく（現状では月1回のみ可能）、旧ページの削除も費用がかかるため見送りとなっているとの報告があった。また、ウェブ上の「公開企画」と「心理尺度の広場」に関して、現状報告と具体的な運用案が提示された。

(3) YPP2019 について

企画申請が例年より遅くなったが、2019年大会の前日に開催を予定している旨の報告があった。具体的には、「ワークライフバランス」をテーマとした若手会員（川本静香氏、川本哲也氏）による講演のほか、ミニポスターセッション、懇親会が企画されているとのことである。

4 旧学会活性化委員会（大会発表賞関連事項）（森常任理事）

2019年度の大会発表賞（ベストプレゼンテーション賞）の選定手続きについて

旧学会活性化委員会は、現在、広報委員会の下部組織となっているが、今回は前年度から引き続き担当している森常任理事より報告と提案がなされた。大会発表賞は既に一号通信に告知されているため、それに沿って企画すること、大会の前に受賞者を決定しておく必要があることが説明された。昨年度は編集委員に1次審査を担当してもらったが、負担が大きいとの声が出たため、今年度は、1次審査を常任理事・理事・幹事（計22名）が1論文3名体制で担当し、2次審査は選ばれた論文の中から、常任理事（8名）が1論文を推薦すること、6月末には、審査者に依頼メールを送り、審査を開始することを申し合わせた。

渡邊理事長より、学会賞ができたことから、次年度以降、大会発表賞についてはなるべく関係者の負担にならない形で進めていきたいとの意向が示された。

5 学会賞選考委員会（北村委員長）

選考経過について報告があり、奨励賞1件の推薦があった。学会賞については、採点の結果、最高得点を獲得した論文が2件あったことから、決選投票を行って決定したい旨の提案があり、承認された。

III 日本心理学諸学会連合（渡邊理事長）

渡邊理事長より、6月16日に総会があるため次回の常任理事会で報告すると伝えられた。

IV 第28回大会準備状況について（第28回大会準備委員会 桂委員）

荒川委員長の代理として、桂瑠以委員により、以下の報告がなされた。まず、1号通信の発行、広告の募集、企画とプログラムの作成、事前参加状況の把握（152名）などは既に終えており、現在は2号通信の発行、論文集の作成と発送（7月）、懇親会の準備を行っている。荒川委員長の裁量により、国際文献社への委託をできるだけ減らしており（ホームページの作成や名簿管理など）、その分の費用が削減できているが、逆にデザイン費や会合費は増加する見込みとのことである。

中村事務局長より、大会前日（8月27日）の理事会について、15時半～17時に主催校で開催することが提案され、了承された。また、大会2日目の昼休みに広報委員会と経常的研究交流委員会が対面委員会の開催を予定しているため、それぞれの部屋の予約と人数分

の昼食の手配を荒川委員長に依頼することになった。

尾見財務担当常任理事より、大会の会計については、すべて学会本体で監査をするため、荒川委員長から大会終了後に収支の報告書と領収書を国際文献社に送ってもらうこと、このとき、各種委員会の昼食代は、大会費用ではなく、委員会費用として処理してもらうよう、桂委員に伝えられた。

1日目の総会時の参加者への昼食提供に関して、過不足が生じたり、学生スタッフの手を煩わせる等の意見が出て、引き続き検討していくことになった。

審議事項

I 第27回大会の収支報告について（尾見財務担当常任理事）

第27回大会の収支報告について審議が行われ、承認された。第27回大会では論文集にかかわる事務処理で若干のトラブルがあった。これに関して、論文集が先方に届いていない機関購入2件については何らかの形で別途送付するとともに（請求は行わない）、第28回大会の総会において、事務的なミスがあり論文集を受け取っていない方は申し出てほしい旨を伝達し、メールニュースでも告知することが提案され、承認された。

II 大会発表論文集をJ-STAGEへアップする件について（森常任理事）

現状では、2017年度（東北文教大学）分までがJ-Stageに đăng載されており、2018年度分も国際文献社に依頼すればすぐに搭載できるが、予算（3万5千円）を計上しておらず、誰が担当すべきかも定まっていないとの報告があった。広報委員会が引き継ぐ内容であることから、今年度は森常任理事が担当し、決算については尾見財務担当常任理事より赤字決済で行うことが提案され、了承された。また、2019年大会の論文集については、来年度予算（2020年度予算）を検討する際に広報の予算として計上することを申し合わせた。

III 財務関連事項（尾見財務担当常任理事）

監査を受けた2018年度決算書、貸貸対照表内訳表、2019年度予算案について、審議の結果、承認された。尾見財務担当常任理事より、当面の財務状況に問題はないが、中長期的には経費削減を検討する必要がある旨の見解が示された。会員になることのメリットを明確にし、退会者を減らすようなしくみを考えていく必要があることを申し合わせた。

IV 公認心理師養成大学教員連絡協議会 連携会議（3/31開催）からの依頼事項について 5年後のカリキュラム見直しに向けた学会案の検討（松田常任理事）

「産業・組織心理学」については学会から標準シラバスが提出されており、各学会からシラバスの案を出す方向で検討されているとの報告があった。パーソナリティ心理学会は「感情・人格心理学」に該当するため、感情心理学会とのすり合わせが必要であり、ワーキンググループの作成も含め、継続審議していくことを申し合わせた。

V 第29回大会開催校の選定について（渡邊理事長）

渡邊理事長より、開催校の選定が難航しており、候補があったらぜひご提案いただきたい

との依頼があった。併せて、開催校の負担をできるだけ削減していく方向で検討を進めることを申し合わせた。

VI 浮谷前理事長の研究室に保管されている学会資料の移管・処分について

中村事務局より、段ボール 10 数箱分の学会資料が浮谷前理事長の研究室（東京富士大学）にあるため、引取りもしくは処分を検討する必要があるとの報告があった。学会の物品を預かってもらっていることから、学会として責任をもって対応することを確認し合った。具体的な対応方法については、経緯に詳しい加藤常任理事から浮谷前理事長に連絡を入れてもらい調整すること、処分費用が発生する場合は学会が負担することを申し合わせた。

VII 会員の入退会に関する件（中村事務局長）

事務局より別紙の通り、新入会希望者 35 名（うち 31 名は ML 審議にて承認済み）、退会希望者 29 名の一覧表が示され、審議の結果、承認された。併せて、宛先不明者について報告があった。

以上の承認を受けて、2019 年 6 月 11 日現在、会員総数は 927 名である。内訳は、一般会員 692 名、院生会員 222 名、学生会員 2 名、名誉会員 8 名、賛助会員 3 名。

※今回審議対象の新規入会希望者 4 名は含まれない。

VIII 第 131 回常任理事会議事録の件

議事録案が示され、承認された。

IX その他

次回常任理事会を 2019 年 7 月 27 日に行うことを申し合わせた。